

「矢祭子ども司書」の皆さんへ

矢祭町は、静かで緑にまつまられたいい町ですね。

子どもも大人もゆつくりと本を読むには、最高の環境に恵まれていると思います。

本は、人生の教師であり、友達でもあります。

子どもの頃に本が好きになり、読書の習慣が身につくと、それは生涯の「心の財産」になります。

矢祭町には、全国の支援者が寄贈してくださった45万冊の本をそろえた「矢祭もつたいたい図書館」があります。「心の財産」づくりをするには、すばらしい町です。学校にも図書室がありますね。

そうしたたくさんの本を、これから子どものも目で整理してならべたり、子どもたちにすすめる本を選んだり、読み聞かせの活動をしたりするのが、新しく発足する「子ども司書」の役目なんです。

山沿いの小さな町では、全国で初めての取り組みです。子どもも大人も「子ども司書」の活動で、いっそう読書好きになっていくでしょう。

また「子ども司書」の皆さんも、司書の仕事だけでなく、自分で本を読むことを忘れないでね。司書をしていると、これまで興味をもたなかったいろいろな本がたくさんあることに気づくでしょう。

そんな本たちの中からも、おもしろい本を借りて読んでください。どんどん知識が増えて、心も成長していくでしょう。

自分が成長することも、「読書のまちづくり」のためにとっても大事なことです。

「さあ、「矢祭子ども司書」になる皆さん、本を楽しみながら、司書の仕事を学んでください。

平成21年6月20日

「矢祭読書のまちづくり」応援団長

ノンフィクション作家

柳田邦男